



[I hope to reduce the feeling of distance between FunctionBay, Inc. and customers.]

お客様が感じているFunctionBayとの距離感を縮めたいと願っています。

Sun Kim, Ph.D.,

Team manager of GUI 1 team

RecurDyn V8のGUIを使うと、RecurDynの開発の最優先事項はその操作性であると感じられるかもしれません。RecurDyn V8のGUIは使い易く直感的に、そしてグラフィックエンジンは高速になるように設計されました。RecurDynが生まれて10年を経てもユーザーの皆様から愛され続けている理由のひとつが、その使い易さです。お客様とFunctionBayとの距離感を縮め、より身近に感じていただけるように、Sun Kim博士は、RecurDynのGUIのソースコードに大きな情熱を注いでいます。今回は、RecurDynのGUI開発マネージャーであるKim博士の談話を紹介しましょう。

1. 韓国FunctionBayに入社しようと思われたのはなぜですか？

私の博士課程の恩師であるChan Jung Kim教授の紹介で、卒業の1～2年前にFunctionBayという会社を知ったのですが、その時Kim教授は、FunctionBayにはGUIの天才的な開発者がいるということをご話されていました。

そして、私はソフトウェアエンジニアリングに興味を持つきっかけとなるような出来事にいくつか遭遇したのです。それは、Function Bayの創設者のひとりであるChoi教授との面会をKim教授から勧められたこと、そしてFunctionBayには私と同じ大学の出身者がソフトウェア開発者として在籍しているのを知ったことです。同時に、ソフトウェアを開発したいという強い願望が私自身の中にも目覚めてきました。その後、FunctionBayで働くことは、おそらく私の運命なのだろうと考えるようになりました。

2. RecurDynにおける博士の担当領域について教えてください。

FunctionBayの開発部隊は、大きく分けてソルバーチーム、GUIチーム、ソリューショングループの3グループに分かれており、私はGUIチームのチーフマネージャーをしています。

GUIは、ユーザーの手によるマウス操作やキーボード入力に直接応答するものです。RecurDynは、そのGUIの使いやすさもあって、ユーザーから10年以上に渡って支持され続けていますが、RecurDynのGUIには400万行ものソースコードが含まれており、その開発は非常に複雑で困難を伴うものです。

3. 博士が開発されたRecurDynの機能の中で、愛着のあるものをひとつ教えてください。

特にRecurDynのV5からV8までの開発期間は、RecurDynのモデルのファイル容量を前バージョンの半分にするという目標をたて、その実現に精力的に取り組んできました。例えば以前100Mbあったファイルは、25Mbにまで縮小させることが出来ました。これらの開発には多大な労力を要しましたが、その成功は私にとって本当に大切な糧となりました。

4. 競合製品に比べてRecurDynの強みは何だと思われますか？

当初は、TrackやMTT2Dなどのツールキットが専門性を持つユーザーの方々にとって高く評価されていたように思います。わたしたちは、ユーザーの皆さんからの要望に迅速に対応し、これらのツールキットの開発に取り組んできました。その後の数年間は、次世代の製品作りに関わる計画の立案を進めています。私はこの次なる新しい製品が必ずや成功を収めると確信しています。

5. RecurDynのユーザーの方々にお伝えしたいメッセージは何でしょうか？

RecurDynの優れた機能は、FunctionBayの開発者たちが作り出したものではありません。それらは、お客様からのフィードバックから生まれるのです。実際のところ、お客様が私達にいろいろと意見を言い要望を出すということは、簡単ではないでしょう。私たちは、RecurDynをより良い製品にするためにも、FunctionBayがお客様との距離を縮め、ユーザーの皆様の身近な存在になれることを願っています。

6. 今後のRecurDynの開発における、博士の夢や達成したい目標をお聞かせ下さい。

RecurDynの開発は、機構解析という非常に大きな分野のごく一部となる細かい機能の開発の集合体であると考えられます。それぞれの細かい機能自身は小さな一つの石であったとしても、それが全て集まればとても大きな山へと姿を変えます。私はFunction Bayで築いているこの山が、韓国の機構解析コミュニティに貢献するとともに、RecurDynが世界の機構解析をリードしていく存在となることを願っています。

■ 学歴

1992	ソウル大学校 機械航空工学部学士号取得
1996	ソウル大学校 機械航空工学部修士号取得
2002	ソウル大学校 機械航空工学部博士号取得

■ 職歴(RecurDynに関する主な開発業績)

2002~2004	RecurDyn V4 ProfessionalのUIを開発
2004~2006	RecurDyn V5 ProfessionalのUIを開発
2006~2008	RecurDyn V6 ProfessionalのUIを開発
2008~2011	RecurDyn V7 ProfessionalのUIを開発
2011~現在	RecurDyn V8 ProfessionalのUIを開発

■ 論文

1994	(Master Thesis) Analysis of Natural Convection in a Meniscus Enclosure and its Application to Contact Melting
1996	Heat-Transfer Correlation for Natural-Convection in a Meniscus-Shaped Cavity and Its Application to Contact Melting Process, International Journal of Heat and Mass Transfer, Vol.39, No.11, 2267-2270, 1996
2002	(PhD Dissertation) Similarity analysis of diffusion controlled binary mixture solidification